

まちの和菓子屋から新たな価値を提案する企業体へ変革！

会社名 有限会社勉強堂
 所在地 広島県福山市熊野町乙1151番地の2
 従業員 38名
 資本金 1,000万円
 売上高 2億5,000万円(2023年6月期見込み)
 業 種 和菓子の製造販売、飲食店経営、美容エステサロン、農業

支援を受けるにあたって掲げた事業上の目標

Before

- 新ブランド「瀬戸内果実研究所」の展開に向け、ビジネスモデル、事業戦略、ブランド・マーケティング戦略の検討が不十分な状況であった。
- 地域や社外パートナーとの協働における知財権の取扱いなど、契約に基づく知財管理を実践する社内基盤や体制の強化が必要であった。

支援を受けてできるようになったこと

After

- 「瀬戸内果実研究所」のリブランディングの方向が明確となり、既存事業の勉強堂ブランドとのシナジーが期待できる体制が整いつつある。
- 外部専門家を賢く活用することで商品企画や店舗売場の改善、プロモーション、WEBサイト改善等に一層自律的に取り組むことができている。

今後の事業展開の展望

Future

- 家内制手工業の和菓子屋から、企業として組織を大きく変貌させる途中にあり、引き続きバックオフィス機能の強化を更に進めていく。
- 広島駅店舗のリニューアル計画を打ち出されるなど、事業課題の的確な把握、分析、対策立案などの組織能力が着実に高まっており、自走化への道が期待される。

加速的支援を受けた事業や商材

商品紹介 みたらしだんご



商品紹介 ほんのぼーの
ひろしまのれものスノーボール



創業94年の老舗和菓子製造販売会社。福山を中心に良質な材料を集め、年間約300種類の和菓子を製造販売。国家資格である一級和菓子製造技能士5名を擁し、伝統技術力に基づく高付加価値な菓子の開発製造技術を有する。

2022年10月に新ブランド「瀬戸内果実研究所」を立ち上げ、地元瀬戸内の果実や農産物を生かした洋菓子や加工野菜への新たな展開を目指している。



加速的支援を実施するにあたって整理した課題

取り組んだ課題	課題に取り組んだ背景・理由
事業戦略の検討	■ 新ブランド「瀬戸内果実研究所」のビジネスモデル、事業戦略の検討が必要
ブランド・マーケティング戦略	■ ブランドの提供価値や対象顧客に関する検討が必要 ■ 商品ラインアップ及び価格政策、商品及びパッケージデザインなどの商品企画などの検討が必要 ■ 販路や売場、イベント、SNS等のプロモーション施策の検討が必要
知財戦略の検討	■ 新ブランド事業拡大の基盤となる既存技術・ノウハウの棚卸し、活用に関する検討が必要 ■ ブランディング戦略に沿った商標や意匠等の知財権の検討が必要
契約や知財等に関する組織ケイパビリティの強化	■ 地域や社外パートナーとの協働における知財権の取扱いなど、契約に関するケイパビリティの強化が必要 ■ 営業秘密管理等に関する整備が必要

加速的支援を通じて受けた支援と支援を通じてできるようになったこと



支援を受けた事項	支援を通じてできるようになったこと	活用専門家
新ブランドのビジネスモデル、事業戦略の検討	・ 「瀬戸内果実研究所」のリブランディングを通じて主力事業のブランディングの重要性を認識。経営者が先頭に立ってWEBサイトの改定等を実施。 ・ オンラインショップのリニューアルにより2024年7月～11月の売り上げは対前年約150%増。	販売戦略コーディネーター デザイン専門家 弁理士
ブランド・マーケティング戦略の検討、具体的な活動の検討	・ 商品企画やプロモーション等に外部の力をうまく活用できるようになった。このことで、「瀬戸内果実研究所」ブランドの成長と勉強堂ブランドとのシナジーの発揮が一層期待できる。	フードコーディネーター、食品ブランド専門家
技術・ノウハウの棚卸し及びそれらの活用方策の検討、必要な出願対応の実践	・ 知財権やその活用に対する理解が深まり、支援期間中においても積極的に知財権（意匠権1件、商標権3件）の取得を図った。	弁理士 知財EX
協働先との関係強化に資する社内基盤の構築	・ 営業秘密管理に対する理解が深まり、新たに設けた知財担当者を中心に、組織としての知財面の管理基盤の整備に着手。	知財EX

支援チーム紹介

主担当専門家：販売戦略コーディネーター 楠本秀利

活用専門家：デザイン専門家、弁理士、フードコーディネーター、食品ブランド専門家、知財EX

知財総合支援窓口担当者：広島県知財総合支援窓口 森本理子

PO(プログラムオフィサー)：喜多克己